

拠点名称：カーボンネガティブの限界に挑戦する炭素耕作拠点

代表機関	東京農工大学	プロジェクトリーダー	養王田 正文 東京農工大学 大学院工学研究院 卓越教授
参画機関	弘前大学、長岡技術科学大学、早稲田大学、日本工学アカデミー、同志社大学、県立広島大学、東京家政学院大学、産業技術総合研究所、森林総合研究所、地球環境産業技術研究機構、海洋研究開発機構 三菱ケミカル株式会社、太平洋セメント株式会社、有機米デザイン株式会社、株式会社バイオマスレジホールディングス、草野産業株式会社、福島県広野町、四国計測工業株式会社、AGC株式会社、株式会社ジャパンインベストメントアドバイザー、株式会社ニチレイフーズ、株式会社日本バイオデータ、株式会社ライケット、株式会社津軽バイオマスエナジー、株式会社エンバイオ・エンジニアリング、大陽日酸株式会社、イオン株式会社、イオンアグリ創造株式会社、公益財団法人イオン環境財団、株式会社エフピコ		

プロジェクトの概要

人類は、食料、エネルギー及び材料のほとんどを光合成により固定化された炭素に依存している。人類は農業を創出することにより多くの食料を獲得することに成功した。我々は、炭素循環社会を実現するために、食料以外のエネルギーや材料もバイオマスから生産する炭素耕作を提唱する。本拠点では、バイオマスの特徴であるカーボンニュートラル特性を最大限に活用し、さらにネガティブエミッション特性をも付与した全く新しい炭素循環コンセプトである炭素耕作によるカーボンネガティブ社会の実現を目指す。

本拠点は、“炭素耕作型農林業の確立”、“炭素耕作による材料開発技術の確立”、“炭素耕作による燃料生産技術の確立”、“炭素耕作で生成する温室効果ガス削減と廃棄物処理技術の確立”、及び“炭素耕作を受容する社会の実現”の5つのターゲットを設定し、農学と工学の研究者が一体となって技術開発を行い、企業や海外の研究者と協力することで社会実装まで発展させる真の意味での共創の場を実現し、炭素狩猟型から炭素耕作型への社会の進化の基礎を築く。

炭素耕作によるカーボンネガティブ社会の実現

